

未来を私達の手で

糸満市立潮平中学校  
三年 玉城 亜梨紗

昔、悲劇があつたこの島に私は生まれた  
海の彼方からやってきた彼ら  
命を捨てることが誇りだと  
戦うことが正しいのだと  
戦場を駆けた彼ら  
死にゆく兵士達に震えるその手で  
明日は我が身かと包帯を巻く彼女達  
まるで地獄絵図のような日々  
絶望してしまつた人々

彼らが守りたかつた物はまだあるのか  
聞くだけではなく  
語り伝えるだけではなく  
私達が作り育てていくのだ  
この島の未来を

何もないこの島に  
しかし、満ちたりていたこの島に  
その日、悲劇は降つてきた

愚かだつたのだろうか  
生きることを望みながらも  
自ら命を絶つた彼らは  
愚かだつたのだろうか  
絶たれた彼らの戦いは  
愚かだつたのだろうか  
彼らの駆け抜けた人生は

「違うよ」 私はそう思う  
命を捨ててもこの島を守りたかつた人達を  
恐怖におびえながらも生きた人達を  
愚かだつたとバカにする権利なんて  
私達にはないはずだ

基地に奪われた大地  
へりが飛び交う青い空  
轟音に悩まされる人々  
名を刻んだ礎に涙を流すばかりの人々

この島には今、何があるだろう